



G.F. Meijlan
Japan:
voorgesteld in schetsen over de
zeden en gebruiken van dat ryk,
byzonder over de ingezetenen der stad Nagasaky
Amsterdam, 1830

G.F. メイラン『日本』

ライデンに生まれた著者のメイラン (Germain Felix Meijlan, 1785-1831) は、1803年東インドに渡り、数々の役職を歴任した後、1826年、長崎出島のオランダ商館長に任命された。

当時、日蘭貿易は低迷期にあり、商館員による私的な貿易も問題化していた。1828年にはシーボルトによる日本地図の国外持ち出しが発覚する(シーボルト事件)など、メイランは多くの困難に直面したが、事態の改善・問題の解決に尽力し、商館長の職責を果たした。

本書は1829年に出島で書き上げられ、翌1830年にアムステルダムで出版された。長崎、出島に関する記述を主として、日本の社会制度・宗教・習俗・言語・美術・産業・学問などを15章で概説し考察を加えている。節分の豆まきと、葬儀の様子を描いた図版2枚を収める。

メイランは日本での任期を終えたのち、1831年バタヴィアで46年の生涯を閉じた。1827年執筆のもう1冊の著書『日欧貿易史概説』(Geschiedkundig overzicht van den handel der Europeezen op Japan) は、没後の1833年、バタヴィアで出版された。